

今回の「ススメ→アピラ」が着目したのは、安平町が世界に誇る産業のひとつ『競走馬の牧場』。

その牧場で働く1人の青年の思いに迫ることとしました。

## 「安平町は名馬を輩出しているまち」

こんなフレーズで、これまでも多くの紹介をして来たかもしれませんが、

今回のように現場で働く人の思いに迫った取材は、きっと“初”の試みであると…。

農業を専門に学んできたわけではない青年が、いったいどんな思いで、この業界に飛び込んだのか？

そんな思いが、安平町の産業や文化を作っていく。夢に向かって励んでいる青年を取材しました。

朝6時過ぎ。

せわしなく動き出す牧場で出会った若者の姿。



厩舎の中で、彼の姿を撮影しようとしても、カメラの前を従業員の方々が通り過ぎて行く。「朝が一番人の動きが多い」という言葉が実にしっくりとくる1枚になった。

朝6時過ぎ。厩舎を縦横無尽に動く清水さんの姿があった。

「朝はやることが多くて。馬房の掃除や馬の運動、餌の準備など。こういう基本的なことができるよう、一つ一つ丁寧に取り組むことを心がけています」と話す姿からも、謙虚な人柄を感じ取ることができた。



「だいぶ馬を扱うことには慣れて来ましたが、いつまで経っても緊張はする。きっとこの緊張感はずっと続くんでしょね」と、しっかりと手綱を持ち、馬を馬房の外へ連れ出していった。

(写真：右下)

「1頭1頭、餌の配合が異なるので間違えられない。人間と同じで食べ物はとても大切なんです」と、作業の手を止めることなく次々と用意していく。(写真：左)

